

新聞で未来をひらこう

NIE全国大会名古屋で開幕

新聞を開いて、世界に目を向けよう。教育現場での新聞の活用法を探るため、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開幕した第二十二回NIE全国大会名古屋大会は三日、開会式に続いてノーベル物理学賞を受賞した名古屋大の天野浩教授の講演があった。同教授は「新聞記事を基に、どうやって課題を解決できるか、考えている。新聞記事は研究者にとって羅針盤」と述べ、新聞と自身との関わりについて語った。座談会詳報⑬面、関連⑭面

開会式では、中日新聞社の大島宇一郎社長が、新聞を毎日読んでいるという最年少プロ棋士で公式戦二十九連勝の新記録を打ち立てた中学三年、藤井聡太四段（も）の記事を紹介。「子どもたちは自ら学び、自らの未来、世界をひらいてほしい」とあいさつした。天野教授の講演後は、座談会があった。大会実行委員長の土屋武志・愛知教育大教授の進行で展開。天野教授に加えて、女子レスリング五輪メダリストの吉田沙保里選手、中日新聞社の



NIE全国大会で記念講演をする天野浩教授＝3日午後、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で（長塚律撮影）

小出宣昭顧問・主筆、地元の児童、生徒が意見交換した。四日は二十六の分科会に分かれて、小中高校の公開授業や教師による実践発表などがある。当日、会場での参加申し込みもできる。